

(宛名)

小倉北方歩兵第四拾七聯隊

補充大隊第四中隊第三班

檜崎金之助君

(差出)

東松浦郡徳須恵村

チチャパチヤ俱樂部長

多辨生

(本文)

嗚呼人生の遭遇(通)は予言されぬものである

君は如何に平素相集り相喜び相睦ま

かりしは昨今の如し 今は君は身を犠牲

にして国家の為に殉死せねばならぬ

身になつた 是又国家の干城ともなる

べ身である 不肖の言をまたす たが君も

相応の教育を受けている事だから 此の

意は篤とうせられていよ時にだ君も

定めて労働に堪えん許りてあらう 金

枝玉葉の離の内でへないけども 君も平

素家の内許り居つて力の入つた事もせんで

偶然此の労働はほんに□謝□すで

然し此処三四ヶ月だ耐え給ふ

又何時如何光明を得んも測し難だ

兎にも角にもだね 君は君たる持有の

意志を以て能く上京の命に販促

せねばならぬ義ムがあるね 申す迄もない

然し其の労働幾重にも心煩悶の極である

ほん□□は安気なものだね 雲天

万泥の相違である たけどだね

□も此の交通機綱を掌とる一つの好

機□だ 此れがなければ深夜まつくらの闇で

ある 是れも国家の為めだよ

ほんと云□び□□も今の様うに

□々落ニしている場合でもないのさ

然し就れ其の内には如何なる

光明を得るかも知れぬ 毅然

剛氣奮で大々的次から／＼

泰西人の否大日本帝国人の宜

敷気敏一番覚悟せねばなら

ぬ時機にあつて 未た中々世の中は

物騒で愕々で心が着沈せぬ

ガ 此処だ軍は破竹の勢で続々旅

順口川の快復は着々と湧出している

陸の方も正に○○○地方に於て大々的

古今未曾有たる一大快闘で千代
を交ふんとしている さあどうだ

悪国否先導して帝国民士の宜

敷目を据ゑて日見するべしだ

如何に／＼□も高くして唾むられね時だ

君は如何にさもあらべすだろう

ほんに待ち長い事でする事ね 自

烈たい様ふですよ とうなる事かと考の様である

君は井手君や石崎君と一所なれば

よい事であつたけども 孤生の身になつて

ほんに淋しい事だろう 然も又其の内

には相見知り朋友も出来る事たろう

まあそら心慮するに及はぬさ

悠々磊落交際に気を付け給ひ

失敗する事句れ□ぶか第一たよ

然し君にして君は特有たる所を以て

他人の短処を捨てて長所を取つて

交つていたら失敗の事は無かろう

又酒は呑むといかんばい 煙草はしかたがない

遊楼は決してたよ 身を一度軍□に

入してからは勤直沈着□にあたり驚

かず能く胆力を練り度胸を据ゑて

他□人より辱を受けん様

注意せんといけませんね

□言を唆づだ

進藤の耕ちやんも農学校には

首尾が克ふして十番とかて及第

したそうな 嬉んで□ださい

鉄ちやんほとろい□□□の手段を以て

○○○の女を娶る様うになつて 今では

睦ましい様だ 本懐を達したと云ふをかね

二人暮しの気楽さ父母定めて

今こそ胸撫でをろしたであろうか

失礼を

四月十九日

松尾

榑崎大兄

時節柄御自愛專一に□り

奉る